

# 船橋市社会科学セミナー通信 第167号

## 8.1土 報告

勉強会会場はいつもの「プラウド・ター-船橋」。

今回の出席者は、①講師の皆川征夫名誉会長と②会場担当で事務局長の大野 肇先生(行徳高校)と③佐藤一巳④富澤眞也(旭中)⑤田邊順基(前原中)⑥野宮典子(浦安市浦安中)⑦関紀和⑧中谷佳子(飯山満小)⑨津久井智洋⑩小野正人(行田中)⑪山口隆(旭中)⑫藤木信弘(松戸高木第二小)の各先生と⑬会長の池田義光の合計13名。今回は目標の10名に達することができました。

## 1本目: 皆川征夫名誉会長の講演

皆川征夫 先生

皆川征夫先生は本セミナーを25年前に立ち上げた方です。  
本セミナーでの夏の講演も毎年回を重ね今回で15回ほどになります。

### [1]教材研究の大切さ

#### 1 教師にとって最も大切なのは授業であり、そのための教材研究である

教育者にとって最も大切なのは、「生きる力」の育成であり、生きる力につながる「学力」である。

「学力」を高めるために中心となるのは授業である。

授業を高めるのはどれだけ教材研究をしたか。

従って、教師にとって最も大切なのは授業の力であり、そのための教材研究であることを肝に銘じてほしい。

#### 2 教材研究は充分か

ところが最近教材研究が充分でないとの声を聞く

やるが多すぎる。忙しすぎて教材研究が充分にできないという。

部活動で忙しい。生徒指導で忙しい。保護者対応で忙しい。会議で忙しい。雑用で忙しい。学級通信で忙しい。等々。

本末転倒になっていないか？

学校は教育課程を通して人間形成をする場である。

どんなに一生懸命活動しても知的なものを鍛えなければ人間として不十分である

部活に走りすぎである。部活の朝練はなしにできないか。週1日は休みにできないか？

会議が減らせないか？ 学級通信は減らせないか？ 事務は？

工夫して教材研究の時間を確保してほしい。

#### 3 共に学ぶことも大切

あなたの学校の教科部会は充実していますか？ 教材研究のために共に学ぶ機会を大事にしてほしい。

私は若い頃、社会科学学習指導資料集や地域資料作成委員会を立ち上げた。船橋市内の学校に資料を提供する目的の委員会だが、それ以外に委員同士で勉強するという目的もあった。今でもあるそういった機会では是非学んでほしい。

その他にも郊外で学ぶ機会をさがしてほしい。この社会科セミナーも20年以上も前に社会科の先生方の勉強の機会として立ち上げた。こういった機会を積極的に活用してほしい。

#### 4 学校教育の中心は教師の力である

今、コミュニティスクールなど、学校へ地域の力を導入しようとの動きがある

地域の力を活用するには、地域に教育の理解が進まなければならない

学識経験者代表として医師などが学校経営に出てくる場合があるが、教育のことを良く理解しているか

相当の人を集めなければコミュニティスクールは難しい

どんな社会になっても、学校経営の基本は、教育の専門家である教師であるとの自覚が必要

その意味で教師の力を高めなければならない。

教師の力の中心は授業の力であり、そのために教材研究が肝要なのである

## [2] 日本の農業」の授業と教材研究

昨年の講演の際に、今回は「日本の農業」の授業と教材研究について、話してほしいとのリクエストがあった。

農業は人間が生きていくのに重要な産業であり、農業を教えることは極めて重要である。

ではそれをどのように教えるか

### 1 「水田」と「畑作」をきちんと教えよう

#### (1) 「水田」をどう教えるか

「乾田」と「湿田」を教えよう

船橋周辺に良く見られる水田、谷津田は湿田である。鎌ヶ谷の貝殻山公園は谷津田だった。田下駄を使った。稲作りが大変だった。船橋周辺は「下々田」が多かった

米所と言われるところの多くは、乾田である。湿田も乾田化した。庄内平野・新潟・秋田…

土地の改良として、客土を教えよう。砺波平野や石狩平野などである

稲は日本文化の中心である

水田農業には治水が欠かせないので貧富の差が大きくなる

かつての水田農業は50戸くらいの集落が単位でその中に名主から下人などの差があった

#### (2) 「畑作」をどう教えるか

畑作については、気候との関係をしっかりつかませてほしい

特に「関東・鹿児島・十勝の三大畑作地帯」を比較して理解させたい

そこでは「一般的共通性」と「地方的特殊性」で理解させたい

三大畑作地帯の一般的共通性としては、土壌はシラスや火山灰で地形は台地というのがある

地方的特殊性には、三大畑作地帯それぞれの作物の違い（十勝平野ならジャガイモ・テンサイ・小豆など、関東平野なら生鮮野菜、鹿児島ならサツマイモなど）

作物の違いはそれぞれの地域の気候の違いと消費地からの距離の違いがある

ところが、交通手段が発達して相対的距離が短くなると、三大畑作地帯いずれでも生鮮野菜の栽培が可能になる。そうすると三地域の競合の問題が出てくる。するとそれぞれの地域は気候の違いを活かし、十勝は夏に出荷し、鹿児島は冬に出荷する畑作になる。

### 2 地理的見方を教えよう

以上のようにして、三大畑作地帯の比較学習で、「分布」と「一般的共通性と地方的特殊性」と、「絶対的距離と相対的距離(時間的距離)」「競合関係」という地理的な見方を教えることができる。

### 3 範例学習と事例学習(サンプルスタディ)

いずれも知識を整理し、地理的な見方・考え方を効率よく身に付けさせる学習方法である。

ここで取り上げた、三大畑作地帯を比較する学習は、範例的な学習である。

私が若い頃研究・発表した「事例学習(サンプルスタディ)」は徹底的に一事例にこだわる学習スタイルである。例えば、「日本の農業」の学習を行う場合、甲府の兼業農家に焦点をあてて、徹底的にその農家のことを学ぶ。農業をやっているのは誰か。どんな作物を栽培しているのか。どんな作業をするのかなどなど、徹底的に学び、それを通して「日本の農業」を浮かび上がらせる。事例学習で大事なものは、その事例が学習するテーマの典型となっているかということである。範例学習と事例学習(サンプルスタディ)は今では、教科書の書き方などに活かされているので先生方も自然にそうした学習を仕組んでいることが多いが、意識的にそうした学習をしなくてほしい。

#### 4 近郊農業を教える

畑作として「近郊農業」を教えるのは極めて大切である。近郊農業を教えることで、消費地との関係や、生鮮野菜作りと園芸農業をしているわけ、農業地域どうしの「競合関係」などを教えることができる。

#### 5 農業学習には「経営的視点」を教えることが大切

従来、この視点が重視されて教えられていたか？

農家見学の際、農家のお婆さんの手に着目させて、農家の苦労を理解させる視点ばかりでいいのか

農業経営者としての農家は土作りに命を懸ける。それが関東ローム層の土で農業をやるということにつながる。

今年庄内平野に行って驚いた。米所庄内平野で米を作っていない。多くが畑作地に変わった

**(⇒今でも庄内平野を米所と教えていて良いのか！)**

米の生産過剰で米作りが収入にならないなら、米所も米を止める

日本の元々の農業は、狭い土地に多くの資本と労働力を投下する「集約的農業」

梨農家では1週間に1回は農薬を散布する。農薬散布には1台1000万円の車を使う。他に500万円のトラクターもいる。機械をたくさん使う農業はとにかく金がかかる。

農家の後継者の問題も深刻である。後継者には農業の未来が見えない。夢が持てない。

戦後の均分相続の問題も農家にとって、農家として経営を立ちゆかなくする

近郊農村では、農業が上手くいかなかったり、後継者ができなかったり、均分相続の問題などで、農地を農業以外に、アパートや駐車場にしたり売却してしまうことがおこる

#### 6 農業の今後の課題

(1) 農地は緑地として重要である(生産緑地)

(2) TPPと農業の未来

誰でもできるものを作っていたら競争に負ける。ブランド化や安全なものをつくる

今の果物はかつてより大変甘くなった。ぶどうの巨峰は糖のかたまりである。

大規模化で企業的農業をしている農家もあるが、多くは採算が合わず失敗

水耕栽培など工場生産的な農業が増えてくる

(3) 食料の自給率の問題も重要

**※ここで、皆川先生から参加者に、日本のこれからの農業をどう教えるか、参加者で討論してほしいとの提案があった。**

★子供たちに農業のすばらしさを教えたい。母が農家。母の実家のトマトは美味しかった。農業のすばらしさを教えることで後継者育成につなげたい。近郊農家はお金持ち

★農産物の安全性の問題、農産物の品質の問題、食糧自給率の問題、CO2の問題など様々な視点で教えたい

★修学旅行で農業体験をした子は農業をやりたいというのだが、農学部に行くために勉強しようという変わる。

★スーパーに並んでいる野菜に国産を買うか外国産を買うか、考えさせる

★祖母が近江八幡の生まれでかつての大地主。ブランド化で道の駅の活用を教えたい

- ★これからの農業はブランド化、企業化が必要
- ★これからの農業について考える場面を与えて考えさせたい
- ★自給率の問題をグループで話し合わせたことがある。
- ★自給率の問題では子どもはアメリカから買えばいいと結論づけがち
- ★今世界第2位の農産物輸出国はオランダである。子供たちにオランダの農業を学ばせたい。オランダは徹底した管理型農業である。しかし日本もオランダ的な管理型農業一本槍になっていいのかが疑問がある。そこで討論になる。

### [3] 補足として

#### 1 今、避けて通れない問題3つを挙げれば

- (1) 日本の食糧自給率の問題
- (2) 日本の安全保障の問題
- (3) 日本のエネルギーの問題

#### 2 「学問のススメ」を読んでほしい

読んだ人は意外と少ないが、教師は是非読むべき  
 諭吉は「学問をすれば生活が豊かになる」と言う。  
 そういう教え方をしよう。実学をしたい。  
 学ぶ意義をつかませたい。必要と思えば自ら学ぶ。

#### 3 現代社会についての考察

- (1) 子供たちは「等価交換」でものごとを考えている  
 子供たちは消費者としてものごとを考えている  
 従って授業はがまんするが代わりに何を与えてくれるかと考えている
- (2) 態度を示すのに「不快感」で示す
- (3) 自己決定は自己責任  
 それですまない場合もある。格差社会を生む

#### 4 次のことはバラバラにしないで一緒に教える

- (1) 権利と責任
- (2) 福祉と負担

#### 5 次回は「明治維新」について、話したい。

今回のレジュメで話すことができなかったので、ぜひ残りの部分も読んでおいてほしい。次回は「明治維新」の教材化について、皆さんで話し合いがしたい。

**9月セミナー予定 9月19日(土)**

**〈勉強会〉は、プラウドタワー船橋1階入口 3時集合**

- ①日本の歴史（大野肇）
- ②知っ得ニュース（池田義光）
- ③その他の報告を募集中です

※終了後 船橋駅周辺で 6:30頃から**〈懇親会〉**

⇒出欠席を 16日前までに池田宛てにお知らせください

【お知らせ】昨年度4月から、「社会科セミナー通信」の掲載及びセミナーへの出欠の連絡は、「船橋市社会科セミナー」のホームページで行っております。〈船橋市社会科セミナー〉で検索できます。



プラウドタワー（船橋北口）